

1. 著書（単著・共著・共編著）

- ①塩原良和『ネオ・リベラリズムの時代の多文化主義——オーストラリアン・マルチカルチュラリズムの変容』三元社、2005 年 11 月
- ②関根政美・塩原良和編『多文化交差世界の市民意識と政治社会秩序形成』慶應義塾大学出版会、2008 年 1 月
- ③石井由香・関根政美・塩原良和『アジア系専門職移民の現在——変容するマルチカルチュラル・オーストラリア』慶應義塾大学出版会、2009 年 3 月
- ④塩原良和『変革する多文化主義へ——オーストラリアからの展望』法政大学出版局、2010 年 7 月
- ⑤塩原良和・竹ノ下弘久編著『社会学入門』弘文堂、2010 年 11 月
- ⑥近藤敦・塩原良和・鈴木江理子編著『非正規滞在者と在留特別許可——移住者たちの過去・現在・未来』日本評論社、2010 年 11 月
- ⑦塩原良和『共に生きる——多民族・多文化社会における対話』弘文堂、2012 年 7 月
- ⑧上村英明・木村真希子・塩原良和編著／市民外交センター監修『市民の外交——先住民族と歩んだ 30 年』法政大学出版局、2013 年 2 月
- ⑨吉原和男編者代表、蘭信三・伊豫谷登士翁・塩原良和・関根政美・山下晋司・吉原直樹編『人の移動事典——日本からアジアへ・アジアから日本へ』丸善出版、2013 年 11 月
- ⑩大澤真幸・塩原良和・橋本 努・和田伸一郎『ナショナリズムとグローバリズム——越境と愛国のパラドックス』新曜社、2014 年 8 月
- ⑪塩原良和・稲津秀樹編著『社会的分断を越境する——他者と出会いなおす想像力』青弓社、2017 年 1 月
- ⑫塩原良和『分断と対話の社会学——グローバル社会を生きるための想像力』慶應義塾大学出版会、2017 年 4 月

⑬渡戸一郎編者代表、塩原良和・長谷部美佳・明石純一・宣元錫編『変容する国際移住のリアリティ——「編入モード」の社会学』ハーベスト社、2017年8月

⑭塩原良和『分断するコミュニティ——オーストラリアの移民・先住民族政策』法政大学出版局、2017年10月

2. 学術雑誌・紀要・編著書等に発表した論文

①塩原良和「ナショナリズムと『本質化』——96・97年の歴史教科書見直し論を事例に」『解放社会学研究』（日本解放社会学会）第12号、1998年12月、72-93頁

②塩原良和「多文化主義における『ネイションの再想像』——オーストラリアの文化政策言説に関する政治社会学的考察」『法学政治学論究』（慶應義塾大学）第44号、2000年3月、35-58頁

③塩原良和「ネイションの社会的構築性をめぐる視角——序論的考察」『解放社会学研究』（日本解放社会学会）第14号、2000年3月、76-93頁

④塩原良和「社会学におけるナショナリズム研究の理論的展開」『法学政治学論究』（慶應義塾大学）第46号、2000年9月、569-591頁

⑤塩原良和「公定ナショナリズムとしてのマルチカルチュラリズム——現代オーストラリアにおける国民統合言説の再構築」『オーストラリア研究』（オーストラリア学会）第13号、2001年3月、33-45頁

⑥塩原良和「『多文化主義批判』の盲点——豪 NSW 州における『EAC 改名論争』を事例に」『オーストラリア研究』（オーストラリア学会）第14号、2002年3月、37-51頁

⑦Shiobara, Yoshikazu, 'Australian nationalism studies: beyond the fiction of "one nation = one Nationalism"' 『追手門学院大学オーストラリア研究紀要』第28号、2002年12月、283-300頁

⑧塩原良和「エッセンシャルな『記憶』/ハイブリッドな『記憶』——キャンベラの日本人エスニック・スクールを事例に」『オーストラリア研究』第15号、2003年3月、118-131頁

⑨Shiobara, Yoshikazu, 'Essentialisation and the Possibility of Hybridisation in Ethnic Schools: A Case Study of a Japanese School in Canberra' Referred Conference Proceeding for The Australian Sociological Association 2003 Conference, December 2003. (査読付学会報告集：CD-ROM).

- ⑩Shiobara, Yoshikazu, 'The Beginnings of Multiculturalization of Japanese Immigrants to Australia: Japanese Community Organizations and the Policy Interface' *Japanese Studies* (Japanese Studies Association of Australia) 24(2), September 2004, pp. 247-261.
- ⑪塩原良和「多文化的市民のための多様な多文化主義——多文化主義政策分析のための方法的インプリケーション」有末賢・関根政美編『戦後日本の社会と市民意識』慶應義塾大学出版会、2005年3月、97-121頁
- ⑫塩原良和「『ネオ・リベラリズムの時代の多文化主義』への視座——オーストラリア多文化主義言説の変容に関する序論的考察」『アジア太平洋レビュー』（大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター）第2号、2005年9月、15-26頁
- ⑬Shiobara, Yoshikazu, 'Middle-Class Asian Immigrants and Welfare Multiculturalism: Case Study of a Japanese Community Organization in Sydney' *Asian Studies Review* (Asian Studies Association of Australia) 29 (4). December 2005, pp. 395-414.
- ⑭塩原良和「共有されるニーズと、分断されるリアリティ——シドニー北部のアジア系中間層移民への行政サービスと共生への課題」『共生社会システム研究』1 (1)、2007年6月、52-70頁。
- ⑮塩原良和「多文化主義国家オーストラリア日本人永住者の市民意識——白人性・ミドルクラス性・日本人性」関根政美・塩原良和編『多文化交差世界の市民意識と政治社会秩序形成』慶應義塾大学出版会、2008年1月、143-161頁
- ⑯塩原良和「ネオリベラル体制下における多文化主義の再編——オーストラリアの事例から」『社会学年誌』（早稲田社会学会）第49号、2008年3月、55-69頁
- ⑰塩原良和「あらゆる場所が『国境』になる——オーストラリアの難民申請者政策」『Quadrante』（東京外国語大学海外事情研究所）No. 10、2008年3月、151-164頁
- ⑱塩原良和「『改革』される多文化主義——オーストラリアにおける移民政策の変容とネオリベラリズム」鶴本花織・西山哲郎・松宮朝編『トヨティズムを生きる——名古屋発カルチュラル・スタディーズ』せりか書房、2008年9月、99-109頁
- ⑲塩原良和「オーストラリアの移民受入政策の現状と課題——『言語』の観点から」春原憲一郎編『移住労働者とその家族のための言語政策——生活者のための日本語教育』ひつじ書房、2009年1月、121-146頁
- ⑳塩原良和「『統合』の論理から『対話』の論理へ？——オーストラリア多文化主義研究の展開」『法学研究』（慶應義塾大学法学部）83(2)、2010年2月、95-127頁

- ②①塩原良和「ネオリベラル多文化主義とグローバル化する選別／排除の論理」『社会科学』（同志社大学人文科学研究所）86、2010年2月、63-89頁
- ②②塩原良和「『連帯としての多文化共生』は可能か？」岩渕功一編著『多文化社会の＜文化＞を問う——共生／コミュニティ／メディア』青弓社、2010年6月、63-85頁
- ②③塩原良和「『国際社会学』を問い直す——多文化主義研究からの試論」『三田社会学』（三田社会学会）15、2010年7月、71-82頁
- ②④塩原良和「『国民』が変わる——ナショナリズムと多文化主義・多文化共生」塩原良和・竹ノ下弘久編著『社会学入門』弘文堂、2010年7月、250-263頁
- ②⑤塩原良和「オーストラリアの難民申請者政策——溶け合う『国境』と『国内』」近藤敦・塩原良和・鈴木江理子編著『非正規滞在者と在留特別許可——移住者たちの過去・現在・未来』日本評論社、2010年11月、231-249頁
- ②⑥塩原良和「越境的社会関係資本の創出のための外国人住民支援——社会的包摂としての多文化共生に向けた試論」『法学研究』（慶應義塾大学法学部）84(2)、2011年2月、279-305頁
- ②⑦塩原良和・原千代子「外国人住民支援現場と大学教育の『協働』の可能性——川崎市ふれあい館を事例に」（研究ノート：査読有）『PRIME』（明治学院大学国際平和研究所）33、2011年3月、47-62頁
- ②⑧塩原良和「隠された多文化主義——オーストラリアにおける国民統合の逆説」日本移民学会編『移民研究と多文化共生』御茶の水書房、2011年6月、20-37頁
- ②⑨塩原良和「先住民族の自己決定とグローバリズム——オーストラリアからの示唆」上村英明・木村真希子・塩原良和編著／市民外交センター監修『市民の外交——先住民族と歩んだ30年』法政大学出版局、2013年2月、189-201頁
- ③⑩塩原良和「エスニック・マイノリティ向け社会政策における時間／場所の管理——オーストラリア先住民族政策の展開を事例に」『法学研究』（慶應義塾大学）86(7)、2013年7月、125-164頁。
- ③⑪塩原良和「外国につながる子どもの教育——シティズンシップの視点から」宮島喬・藤巻秀樹・石原進・鈴木江理子（編集協力）『なぜ今、移民問題か』（別冊『環』20）藤原書店、2014年7月、250-255頁。
- ③⑫Shiobara, Yoshikazu (translated by Christine Pelloquin and Luca Marin), "La classe moyenne multiculturelle mondialisée et la fragmentation de la citoyenneté," *Migrations Société*, Vol. 27, no.

157 (janvier-février 2015), pp. 111-131.

- ③③塩原良和「グローバル・マルチカルチュラル・ミドルクラスと分断されるシティズンシップ」駒井洋監修・五十嵐泰正／明石純一編著『「グローバル人材」をめぐる政策と現実』明石書店、2015年6月、222-237頁。
- ③④塩原良和「制度化されたナショナリズム——オーストラリア多文化主義の新自由主義的転回」山崎望編『奇妙なナショナリズムの時代——排外主義に抗して』岩波書店、2015年9月、165-195頁
- ③⑤塩原良和「グローバリゼーションの時空間とエスニック・マイノリティ向け社会政策——『多文化主義と空間』研究に向けた試論』『法学研究』（慶應義塾大学）89(2)、2016年2月、163-187頁
- ③⑥塩原良和「ネオリベラルな『場所（コミュニティ）ベース』のアプローチ——オーストラリアのエスニック・マイノリティ政策の変質』『生存学』（立命館大学生存学研究センター）9、2016年3月、162-172頁
- ③⑦塩原良和『「人口問題」と多文化共生——『経済』の論理と『権利』の規範』『世界思想』43、2016年4月、36-40頁。
- ③⑧塩原良和「オセアニアから見えてくるもの——トランスナショナルな想像力へのレッスン」西原和久・樽本英樹編『現代人の国際社会学・入門——トランスナショナリズムという視点』有斐閣、2016年5月、241-258頁。
- ③⑨塩原良和「在豪日本人永住者と多文化主義——シドニーにおける日本語コミュニティ言語教育の発展」長友淳編『オーストラリアの日本人——過去そして現在』法律文化社、2016年7月、118-133頁。
- ④⑩塩原良和「共生と対話——多文化主義の刷新のために」『TASC MONTHLY』（公益財団法人たばこ総合研究センター）No.491、2016年11月、12-18頁。
- ④⑪塩原良和「越境的想像力に向けて」塩原良和・稲津秀樹編著『社会的分断を越境する——他者と出会いなおす想像力』青弓社、2017年1月、25-49頁。
- ④⑫Shiobara, Yoshikazu, “Between Liberation and Neglect: ‘Community-based’ Approaches and Neoliberalism in Policies for Asylum Seekers in Australia,” *Hogaku Kenkyu* (Journal of Law, Politics and Sociology) Vol. 90 no. 1, January 2017, pp. 518-542. (『法学研究』（慶應義塾大学）90巻1号)
- ④⑬塩原良和『「線」の管理から『面』の管理へ——技能移民受入・庇護希望者抑留と空間性』

小井土彰宏編『移民受入の国際社会学——選別メカニズムの比較分析』名古屋大学出版会、2017年2月、70-94頁。

④塩原良和「外国人労働者受け入れと多文化共生——いま、ここにある多文化化の現実から」『農業と経済』83(6)、2017年6月、39-47頁。

⑤塩原良和「就学前児童支援と移住女性へのエンパワーメント——シドニーの日本人永住者によるプレイグループ活動の発展」渡戸一郎編者代表、塩原良和・長谷部美佳・明石純一・宣元錫編『変容する国際移住のリアリティ——「編入モード」の社会学』ハーベスト社、2017年8月、61-75頁。

3. 学位論文

①塩原良和「マジョリティ・ナショナリズムに関する一考察——96・97年の日本における歴史教科書論争を中心に」慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士論文、1998年3月修士号取得

②塩原良和『「包摂」をこえて——1990年代から2000年代初頭のオーストラリアにおける公定多文化主義とその社会的文脈』慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻博士論文、2004年12月博士号（社会学）取得

4. 英文文献・論文の邦訳

①Morris- Suzuki, Tessa, 'Frontier, indigenous peoples and power' (塩原良和訳「辺境、先住民社会、権力」、青木保ほか編『シリーズ アジア新世紀 第7巻 パワー——アジアの凝集力』岩波書店、2003年5月、211-227頁)

②Hage, Ghassan, 1998, *White Nation: Fantasies of White Supremacy in a Multicultural Society*, Annandale, NSW: Pluto Press. (保莉実・塩原良和訳『ホワイト・ネイション——ネオ・ナショナリズム批判』平凡社、2003年8月) (四六版 404頁。すべての章を訳者ふたりが担当)

③Morris- Suzuki, Tessa, 'Conversation with Mino Hokari' (塩原良和訳「ミノ・ホカリとの対話」〈解説〉保莉実『ラディカル・オーラル・ヒストリー』御茶ノ水書房、2004年9月、283-299頁)

④Narayan, Uma, 1997, 'Eating Cultures: Incorporation, Identity and Indian Food' in *Dislocating Cultures: Identities, Traditions, and Third-World Feminism*, New York: Routledge, pp. 159-188. (塩原良和訳「文化を食べる——インド料理をめぐる食文化の取り込みとアイデンティティ」テッサ・モーリス＝スズキ・吉見俊哉編『グローバリゼーションの文化政治』平

凡社、2004 年 11 月、204-241 頁)。

- ⑤Morris- Suzuki, Tessa, ‘Border control and policies towards foreign nationals in post-war Japan,’
(塩原良和訳「戦後日本の出入国管理と外国人政策」有末賢・関根政美編『戦後日本の
社会と市民意識』慶應義塾大学出版会、2005 年 3 月、123-143 頁)
- ⑥Yonetani, Julia, ‘The museum as memory mechanism’ (塩原良和訳「記憶装置としての博物
館」倉沢愛子ほか編『岩波講座アジア・太平洋戦争 8 20 世紀の中のアジア・太平洋戦
争』岩波書店、2006 年 6 月、261-288 頁)
- ⑦Srimanjari, ‘An Indian Perspective: Based on a Study of War-Time Bengal in Eastern India’ (塩
原良和訳「インドからの視点——戦間期における東インド・ベンガル地域の考察より」
武者小路公秀監修『アジア太平洋の和解と共存——21 世紀の世界秩序へ向けて』国際書
院、2007 年 3 月、205-216 頁)
- ⑧Hage, Ghassan, 2005, “A not so multi-sited ethnography of a not so imagined community,”
Anthropological Theory Vol. 5 No. 4: 463-475. (塩原良和訳「存在論的移動のエスノグラフ
ィ——^{イマジンド}想像でもなく^{マルチサイティッド}複数調査地的でもないディアスポラ研究について」伊豫谷登士翁
編『移動から場所を問う——現代移民研究の課題』有信堂高文社、2007 年 9 月、27-49
頁)
- ⑨Hage, Ghassan, 2003, *Against Paranoid Nationalism: Searching for Hope in a Shrinking Society*.
Sydney: Pluto Press Australia. (塩原良和訳『希望の分配メカニズム——パラノイア・ナシ
ョナリズム批判』御茶の水書房、2008 年 1 月)
- ⑩Narayan, Uma, 1997, *Dislocating Cultures: Identities, Traditions, and Third-World Feminism*. New
York: Routledge. (塩原良和監訳『文化を転位させる——アイデンティティ・伝統・第三
世界フェミニズム』法政大学出版局、2010 年 12 月)

5. 事典の編集協力

- ①『現代社会学事典』弘文堂 2012 年 12 月
編集顧問：見田宗介、編集委員：大澤正幸・吉見俊哉・鷺田清一
編集協力：赤川学・浅野智彦・市野川容孝・苅谷剛彦・北田暁大・塩原良和・島蘭進・
盛山和夫・太郎丸博・橋本努・船橋晴俊・松本三和夫

6. その他の論文、共同研究、学会報告等

(1) 学術雑誌・大学紀要以外で発表した論文

- ①塩原良和「日本の外国人政策の現状と課題」『SRIC REPORT』（三和総合研究所機関誌）第3巻4号、1998年9月、65-74頁
- ②塩原良和「1980年代以降のオーストラリア移民政策の変化とその社会的文脈」『人の国際移動と現代国家——移民環境の激変と各国の外国人政策の変化』（法務省入国管理局委託調査報告書、研究代表者：梶田孝道 一橋大学教授）2000年3月、97-119頁
- ③Shiobara, Yoshikazu, ‘Social Welfare for Asian Middle Class Immigrants in Australia: A Case Study of Northern Sydney,’ in *The Survival Strategies and Networks of Migrant Professionals in the Asia Pacific*（平成16年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書、研究代表者：石井由香 立命館アジア太平洋大学助教授、課題番号 16402034）2006年3月、72-90頁
- ④Shiobara, Yoshikazu, “Imagining the ‘Transformation’: Limits and Possibilities of Civic Activities of Asian Professional Immigrants in Australia,” in *Political and Social Participation of Asian Migrant Professionals in Australia*（平成18年度～19年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書、研究代表者：石井由香 立命館アジア太平洋大学准教授、課題番号 18402040）2008年3月、41-54頁
- ⑤塩原良和「オーストラリアの移住者定住支援サービスと官民連携——『改革』の時代における『多文化共生』施策の在り方とは」東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター編『越境する市民活動——外国人相談の現場から』（シリーズ 多言語・多文化協働実践研究3）東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター、2008年4月、30-34頁
- ⑥塩原良和「協働実践研究とCEMLA構想」東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター編『越境する市民活動と自治体の多文化共生政策——外国につながる子どもの支援活動から』（シリーズ 多言語・多文化協働実践研究8）東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター、2009年12月、71-77頁
- ⑦塩原良和「多文化社会コーディネーターの社会的意義」東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター編『多文化社会コーディネーター 専門性と社会的役割——「多文化社会コーディネーター養成プログラム」の取り組みから』（シリーズ 多言語・多文化協働実践研究 別冊3）東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター、2010年3月、89-93頁
- ⑧塩原良和「多文化ソーシャルワークの目指すもの」『かながわの多文化ソーシャルワークの推進に向けて——多文化ソーシャルワーク検討事業報告書』かながわ国際交流財団、2011年2月、14-16頁
- ⑨塩原良和「総説 多文化社会における『つながり』の重要性と自治体政策の役割」東京

外国語大学多言語・多文化教育研究センター『地域における越境的な『つながり』の創出に向けて——横浜市鶴見区にみる多文化共生の現状と課題』（シリーズ多言語・多文化協働実践研究 12）東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター、2011 年 3 月、11-20 頁

⑩塩原良和「コミュニティ関係の再創造に向けて」かながわ国際交流財団『外国人コミュニティ調査報告書——ともに社会をつくっていくために』かながわ国際交流財団、2012 年 2 月、60-63 頁

⑪塩原良和「つながりを創造する外国人住民支援に向けて」かながわ国際交流財団『外国人コミュニティ調査報告書 2——ともに社会をつくっていくために』かながわ国際交流財団、2013 年 2 月、84-87 頁

⑫塩原良和「学校・行政・市民活動の連携や協働のあり方」鶴見区地域振興課『平成 24 年度 外国籍及び外国につながる児童・生徒に関する調査事業報告書』2013 年 3 月、53-58 頁

⑬塩原良和「ヘイトスピーチと『傷つきやすさ』の社会学」『シノドス』（2013 年 10 月 15 日）※オンラインジャーナル <http://synodos.jp/society/5846>

⑭塩原良和「2007～2013 年の労働党政権期におけるオーストラリアの庇護申請者政策」『M ネット』166 号、2013 年 12 月 25 日、18-19 頁

⑮塩原良和「効率化の世界で、生きる場所を管理される人々——オーストラリアの先住民政策を事例に」『シノドス』（2014 年 1 月 20 日）※オンラインジャーナル <http://synodos.jp/international/6664>

⑯Shiobara, Yoshikazu, “Everyday multiculturalism and fortuity: A case study on multicultural screen literacy learning education in a university in Japan,” 斎藤正純・中山周治編『映画教育の実践的研究——シネリテラシー教育の可能性を考える』（科学研究費補助金助成事業「後期中等教育における映像メディア教育のための教材開発研究」（研究代表者：千葉茂樹））2014 年 3 月 25 日、63-70 頁.

⑰Shiobara, Yoshikazu, “Places for dialog with others: A short reflection on the emergence of racism and the possibility of educational practices of everyday multiculturalism in contemporary Japan,” (video presentation and script) *Fusion Journal* issue 5 , Nov. 2014. <http://www.fusion-journal.com/issue/005-fusion-changing-patterns-and-critical-dialogues-new-uses-of-literacy/places-for-dialogue-with-others-a-short-reflection-on-the-emergence-of-racism-and-the-possibility-of-educational-practices-of-everyday-multiculturalism-in-contemporary-japan/>

⑱塩原良和「就学前児童支援と移住女性のエンパワーメント——シドニーの日本人永住者

によるプレイグループ活動の発展」『東アジアにおける移民の編入モードと移民政策の動態的研究——日本・韓国・台湾の比較』平成 24 年度～26 年度科学研究費助成事業（基盤研究（B）海外学術調査）報告書（研究代表者：渡戸一郎、研究課題番号 24402034）2015 年 3 月、109-118 頁。

- ①塩原良和「庇護申請者政策における『コミュニティ・ベース』アプローチのジレンマ——労働党政権期（2007-2013 年）のオーストラリアを事例に」『選別的移民政策の国際比較——新自由主義／新保守主義と国民国家の境界再編成』2012-14 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（A）プロジェクト中間報告書（研究代表者：小井土彰宏、研究課題番号 24252008）2015 年 3 月、41-57 頁。

(2) 共同研究プロジェクト報告書

- ①千葉県『千葉県人権・同和問題に関する県民意識調査報告書』2000 年 3 月
共同研究者：竹ノ下弘久（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員）、塩原良和（A4 版全 147 頁。共同執筆につき本人担当部分抽出不可能）
- ②かながわ自治体の国際政策研究会（神奈川県委託研究）『神奈川県外国籍住民生活実態調査報告書』2001 年 8 月
共同研究者：竹ノ下弘久（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員）、塩原良和 他 26 名（A4 版全 396 頁。共同執筆につき本人担当部分抽出不可能）
- ③川崎市『川崎市外国人市民施策実施状況調査報告書』2004 年 2 月
共同研究者：柏崎千佳子（慶應義塾大学経済学部助教授）、坪谷美欧子（横浜市立大学商学部講師）、加藤恵美（早稲田大学大学院）塩原良和（A4 版全 177 頁。本人執筆部分は、15-16 頁、17-22 頁、38-43 頁、50-51 頁、91-99 頁、124-130 頁、143-146 頁）
- ④神奈川県国際交流協会『多言語生活情報の提供・流通 その 2——多言語生活情報センターの活動の展望』2006 年 3 月
共同研究者：渡戸一郎（明星大学教授）、柏崎千佳子（慶應義塾大学助教授）、塩原良和（A4 版全 153 頁。共同執筆につき本人執筆部分特定不可能）
- ⑤東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター「協働実践研究プログラム」渡戸・関班『多文化学習活動センター（仮称 CEMLA）創設に向けた外国人生徒の支援ニーズに関する調査報告書』2008 年 3 月
執筆者分担者：渡戸一郎（明星大学教授）、武田里子（多言語・多文化教育研究センターフェロー）、宣 元錫（多言語・多文化教育研究センターフェロー）、塩原良和（A4 版全 48 頁。第 2 章の執筆を担当）
- ⑥『文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」委託事業 多文化社会コーディネーター養成プログラム 2008（平成 20）年度 委託業務成果報告書』（整理番号 1008）東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター、2009 年 3 月 31 日（A

4版全 66 頁。42-43 頁の執筆を担当)

- ⑦社会福祉法人青丘社 学習サポート事業チーム『だれもが力いっぱい学べるために——青丘社「学習サポート事業」の現状と課題』社会福祉法人青丘社、2012 年 11 月 21 日 (A4 判全 21 頁。全体の監修と 2・6 章の執筆を担当)

- ⑧鶴見区地域振興課『平成 24 年度 外国籍及び外国につながる児童・生徒に関する調査事業報告書』2013 年 3 月

共同研究者：呉世蓮（早稲田大学助手）、奥村奈央（慶應義塾大学大学院）、小林真生（国立民族学博物館共同研究員）、武田里子（大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター研究員）、竹ノ下弘久（上智大学准教授）、富本潤子（NPO 法人 ABC ジャパン）、塩原良和（A4 判全 81 頁。全体の監修と I 章、IV 章 7、V 章の執筆を担当）

- ⑨塩原良和編『豪日交流基金サー・ニール・カリー奨学金受賞公開講座「ポスト 311 期の日豪市民社会～対話と協働の可能性を探る～」講演録』2013 年 6 月 (A4 判全 56 頁)

- ⑩多文化メディア市民研究会編『多文化社会の文化的市民権』（平成 23-25 年度科学研究費補助金基盤研究 B（研究代表者：毛利嘉孝）報告書）2014 年 2 月 (A4 判全 120 頁。108-120 頁のテーマセッション記録における司会を担当)

- ⑪寺中誠監修、ソーシャル・ジャスティス基金編『日本で生かそう！国連人権勧告』（SJF アドボカシーカフェ・シリーズ レビュー）2014 年 8 月 (A4 判全 42 頁。33-38 頁の討論に参加)

- ⑫川崎市『川崎市外国人市民意識実態調査報告書』2015 年 3 月

調査チーム：柏崎千佳子（慶應義塾大学教授）、竹ノ下弘久（上智大学教授）、塩原良和（慶應義塾大学教授）、西口里紗（前・川崎市人権・男女共同参画室外国人市民施策専門調査員）、チャート・デビド（川崎市外国人市民代表者会議代表者）、高橋誠一（川崎市人権・男女共同参画室外国人市民施策専門調査員）、宮島喬（お茶の水女子大学名誉教授）、裴重度（社会福祉法人青丘社理事長）、(A4 判全 198 頁。第 I 部第 2・3 章、第 II 部第 1 章執筆担当)

- ⑬川崎市『川崎市外国人市民意識実態調査（インタビュー調査）報告書』2016 年 3 月

調査チーム：柏崎千佳子（慶應義塾大学教授）、竹ノ下弘久（上智大学教授）、塩原良和（慶應義塾大学教授）、西口里紗（フェリス学院大学兼任講師）、チャート・デビド（川崎市外国人市民代表者会議代表者）、高橋誠一（川崎市人権・男女共同参画室外国人市民施策専門調査員）、宮島喬（お茶の水女子大学名誉教授）、裴重度（社会福祉法人青丘社理事長）、(A4 判全 91 頁。第 5 章執筆担当)

(3) コラム・書評・学術雑誌特集序文など

- ①塩原良和「エスニック・コミュニティ」（コラム）伊豫谷登士翁編『思想読本 グローバ

リゼーション』作品社、2002 年 12 月、150-151 頁

②塩原良和「Ghassan Hage, *White Nation: Fantasies of White Supremacy in a Multicultural Society*」
(書評) 伊豫谷登士翁編『思想読本 グローバリゼーション』作品社、2002 年 12 月、
184 頁

③塩原良和・保莉実・村上雄一「ジャパニーズ・イン・オーストラリア——『記憶』＜過去と現在の交錯点＞——特集によせて」『オーストラリア研究』第 15 号、2003 年 3 月、
62-64 頁

④塩原良和「もうひとつのあとがき——幻ではないブックラウンチを」保莉実『ラディカル・オーラル・ヒストリー』御茶ノ水書房、2004 年 9 月、279-281 頁

⑤塩原良和「『ネオ・リベラリズムの時代の多文化主義——オーストラリアン・マルチカルチュラルリズムの変容』書評論文リプライ」『三田社会学』（三田社会学会）第 11 号、2006 年 7 月、126-129 頁

⑥塩原良和「『白人性』を問題化する」(藤川隆男編『白人とは何か?——ホワイトネス・スタディーズ入門』刀水書房、2005 年の書評)『民博通信』（国立民族学博物館）第 115 号、2006 年 12 月、24 頁

⑦塩原良和「あらゆる場所が『国境』になる——オーストラリアの難民申請者政策」(コラム) 渡戸一郎・鈴木江理子・APFS 編著『在留特別許可と日本の移民政策——「移民選別」時代の到来』明石書店、2007 年 6 月、120-121 頁

⑧塩原良和「飯笹佐代子著『シティズンシップと多文化国家——オーストラリアから読み解く』(日本経済評論社、2007 年)」(書評)『オーストラリア研究』（オーストラリア学会）第 21 号、2008 年 3 月、70-73 頁

⑨五十嵐泰正・塩原良和・宣元錫「労働開国? 移民・外国人労働者・フリーター (討議)」『オルタ』2008 年 11-12 月号、10-18 頁 (鼎談)

⑩塩原良和「スーザン・ジョージ『アメリカは、キリスト教原理主義・新保守主義に、いかに乗っ取られたのか?』(森田成也ほか訳、作品社、2008 年)」(書評)『オルタ』2009 年 1 - 2 月号、60-61 頁

⑪塩原良和「『国際社会学』の到達点」(特集序文)『三田社会学』（三田社会学会）第 15 号、2010 年 7 月、69-70 頁

⑫塩原良和「多文化主義の展開と動揺」日本社会学会社会学事典刊行委員会編『社会学事典』丸善、2010 年 6 月、890-891 頁

- ⑬塩原良和「素早く動くこと／留まり続けること」熊倉敬聡ほか編著『黒板とワイン——もう一つの学びの場「三田の家」』慶應義塾大学出版会、2010年11月、164-165頁
- ⑭Shiobara, Yoshikazu, “In Your Face: A Case Study in Post Multicultural Australia (book review),” *Journal of Intercultural Studies*, 32 (1), January 2011, pp. 95-97.
- ⑮塩原良和「多文化主義におけるメディアの公共性」『学術の動向』（日本学術会議）16(1)、2011年1月、71頁
- ⑯塩原良和「コメント」（特集：グローバリゼーション、移動／定住）『KG/GP 社会学批評』4、2011年1月、83-84頁
- ⑰塩原良和「シンポジウム報告「オーストラリアにおけるリテラシー教育とその日本社会への示唆」」『オーストラリア研究』第24号、2011年3月、13-14頁
- ⑱塩原良和「オーストラリアの自治体政策と移住者について——ユートピアでもなくディストピアでもなく」『M ネット』no. 139、2011年5月、13頁
- ⑲塩原良和「シニシズムを抱きとめて」（書評リプライ）『三田社会学』第16号、2011年7月、147-150頁
- ⑳塩原良和「研究計画を立てよう！」『三色旗』（慶應義塾大学通信教育部）no.762、2011年9月、23-30頁
- ㉑塩原良和「多文化共生施策をめぐる3つの論理」『第8回 移住労働者と連帯する全国フォーラム・東海2011 報告記録集』2012年2月、68-69頁（講演記録）
- ㉒塩原良和「多文化主義における社会的公正」多文化メディア市民権研究会『公共性の再創造』2012年3月、38-40頁（シンポジウム記録集）
- ㉓塩原良和「『明石純一編著『移住労働と世界的経済危機』明石書店、2011年」（書評）『移民政策研究』（移民政策学会）第4号、2012年5月、182-184頁
- ㉔塩原良和「多文化共生の限界を超えて」『神奈川の人権教育 神奈川人権協紀要』（神奈川県人権教育推進協議会）第5集、2012年5月、70-86頁（講演録）
- ㉕塩原良和「生活が苦しい、外国につながる子ども」『This Land is - 』（Asian People's Friendship Society）Vol. 38. 2012年11月、1頁
- ㉖塩原良和「第34回全国外国人教育研究集会・神奈川大会に向けて」『全外教通信』（全国

在日外国人教育研究協議会) no. 131、2013 年 3 月、1 頁

②⑦塩原良和「スピード感」『三色旗』(慶應義塾大学通信教育部) no. 783、2013 年 6 月、37 頁

②⑧Shiobara, Yoshikazu, “Multiculturalism and Integration: A Harmonious Relationship (book review),” *Journal of Intercultural Studies*, 34 (3), June 2013, pp. 298-300.

②⑨塩原良和「対話を生み出す制度と実践」(書評リプライ)『三田社会学』第 18 号、2013 年 7 月、160-165 頁

③⑩塩原良和「公開講座『ポスト 311 期の日豪市民社会——対話と協働の可能性を探る』について」山内由理子編『オーストラリア先住民と日本——先住民学・交流・表象』御茶の水書房、2014 年 8 月、186-190 頁

③⑪塩原良和「書評：安達智史著『リベラル・ナショナリズムと多文化主義——イギリスの社会統合とムスリム』」『ソシオロジ』第 59 巻 3 号、2015 年 2 月、103-108 頁

③⑫塩原良和「書評：友永雄吾著『オーストラリア先住民の土地権と環境管理』」『オーストラリア研究』28 号、2015 年 3 月、84-86 頁

③⑬塩原良和「宗教的過激主義・レイシズム・多文化主義」『図書新聞』3208 号、2015 年 5 月 30 日、2 頁.

③⑭塩原良和「書評：樋口直人著『日本型排外主義』——在特会・外国人参政権・東アジア地政学」『社会学評論』66 巻 1 号、2015 年 6 月 30 日、66-67 頁

③⑮塩原良和「コメントに代えて——『移動』へのエンパワーメントとしての『定住』支援に向けて」『三田社会学』20 号、2015 年 7 月、65-68 頁.

③⑯寺中誠・塩原良和「国連人権勧告は守らなくていいの？——国際人権条約と日本の人権施策」(講演概要記録) ソーシャル・ジャスティス基金編著『民主主義をつくるお金——ソーシャル・ジャスティス基金の挑戦』ハズオン！埼玉出版部、2015 年 10 月、101 頁

③⑰加藤丈太郎・金朋央・宮ヶ迫ナンシー理沙・塩原良和・前田達朗「座談会：憎悪と妄想を越えて」長谷部美佳ほか編『多文化社会読本——多様な世界、多様な日本』東京外国語大学出版会、2016 年 3 月、207-242 頁

③⑱塩原良和・昔農英明・鈴木真弥「『特集：移民の政治的統合の内実——政治社会学的地域研究の視座から』序言」『三田社会学』21 号、2016 年 7 月、1-2 頁

- ③⑨塩原良和・渡戸一郎・鈴木康友・金迅野「グローバル化の中で『共に生きる』とは」(座談会)『三田評論』No. 1203、2016年8月、10-25頁
- ④⑩塩原良和「書評：南川文里『アメリカ多文化社会論——「多からなる一」の系譜と現在』」『社会学評論』67巻3号、2016年12月、345-347頁。
- ④⑪塩原良和「解題 他者と出会いなおし、世界を想像しなおす」塩原良和・稲津秀樹編著『社会的分断を越境する——他者と出会いなおす想像力』青弓社、2017年1月、17-23頁。
- ④⑫塩原良和「いま移民研究に何ができるのか?」『移民研究年報』(日本移民学会)23号、2017年6月、31-34頁。
- ④⑬塩原良和「多文化主義とネオリベラリズム」日本社会学会 理論応用事典刊行委員会編『社会学理論応用事典』丸善出版、2017年7月、756-757頁。
- ④⑭塩原良和「(書評)『〈アジア〉、例外としての新自由主義』——経済成長は、いかに統治と人々に突然変異をもたらすのか? アイファ・オング」ビブリオテカ・アレクサンドリア・コンソーシアム(BAコンソーシアム)制作委員会編『「多元主義」を理解するための30冊——多様化する世界を読み解き、生き抜くために』BAコンソーシアム(電子図書 <http://www.bibalex.jp/index.html>)

(4) 学会・シンポジウム等での報告

- ④⑮塩原良和「現代先進諸国におけるエスニック・マイノリティ同化・排斥言説——ナショナリズム理論としての展開可能性」日本解放社会学会第15回大会テーマ部会報告(於：関西大学)1999年3月27日(口頭発表)
- ④⑯塩原良和「オーストラリアにおける多文化主義の変容と国民統合言説の再構築」オーストラリア学会第11回全国研究大会研究報告(於：杏林大学)、2000年6月11日(口頭発表)
- ④⑰塩原良和「公定ナショナリズムとしてのマルチカルチュラリズム——現代オーストラリアにおける国民統合言説の再構築」政策分析ネットワーク第2回年次研究大会(於：慶応義塾大学)、2000年12月9・10日(ポスター報告)
- ④⑱塩原良和「オーストラリア・ナショナリズム研究の展開——『1ネーション=1ナショナリズム』のフィクションを越えて」第74回日本社会学会大会(於：一橋大学)2001年11月24日(口頭発表)
- ⑤Shiobara, Yoshikazu, 'The unexpected consequence of "multiculturalism critiques": a case study of the 'EAC renaming controversy' in New South Wales, Australia', Nation/State Conference,

Adelaide Research Centre for Humanities and Social Sciences, Adelaide University, Adelaide, Australia, December 16, 2001. (国際会議。英語にて口頭発表)

⑥塩原良和「多様性の中の統一」の罫——オーストラリアにおける多文化主義推進論のジレンマ」市民外交センター設立 20 周年記念シンポジウム (於：明治学院大学) 2002 年 6 月 2 日 (口頭発表)

⑦塩原良和「エッセンシャルな『記憶』/ハイブリッドな『記憶』——キャンベラの日本人エスニックスクールを事例に」オーストラリア学会第 13 回全国研究大会テーマセッション (於：日本大学) 2002 年 6 月 9 日 (口頭発表)

⑧Shiobara, Yoshikazu, 'Japanese as "ethnic", "ethnic" for Japanese: the "Japanese Orientalism" discourse and living experience of Japanese- Australian', the 14th Biennial Conference of the Asian Studies Association of Australia, Hobart, Australia, July 1, 2002. (国際学会。英語にて口頭発表)

⑨Shiobara, Yoshikazu, 'Consuming multiculturalism: a case study of Japanese communities in Australia', the 15th World Congress of Sociology of the International Sociological Association, Brisbane, Australia, July 9, 2002. (国際学会。英語にて口頭発表)

⑩Shiobara, Yoshikazu, 'The Essentialisation of Memories of Culture and The Reproduction of Hybridity: A Case Study of Japanese Immigrant Community in Australia', Seminar series, Division of Pacific & Asian History, Research School of Pacific & Asian Studies, Australian National University, Canberra, Australia, February 11, 2003. (国際学会。英語にて口頭発表)

⑪Shiobara, Yoshikazu, 'The Multiculturalisation of Japanese Immigrants in Australia: Seeking belongings between the two nations' the 12th Biennial Conference of the Japanese Studies Association of Australia, Brisbane, Australia, July 3, 2003. (国際学会。英語にて口頭発表)

⑫Shiobara, Yoshikazu, 'Essentialisation and the Possibility of Hybridisation in Ethnic Schools: A Case Study of a Japanese School in Canberra', the Annual Conference of The Australian Sociological Association, Armidale, Australia, December 6, 2003. (国際学会。英語にて口頭発表)

⑬Shiobara, Yoshikazu, 'Rethinking Multiculturalism from the Perspective of Middle Class Immigrants: A Sociological Study on Japanese Residents in Sydney,' the 15th Biennial Conference of the Asian Studies Association of Australia, Canberra, Australia. July 1, 2004. (国際学会。英語にて口頭発表)

⑭塩原良和「多文化的市民のための多様な多文化主義——多文化主義政策分析のための方法的インプリケーション」第 2 回慶應義塾大学 21 世紀 COE-CCC 国際シンポジウム「多

文化世界における市民意識の動態」(於：慶応義塾大学) 2004 年 11 月 23 日 (口頭発表)

⑩塩原良和「ネオ・リベラリズムの時代の多文化主義——対抗原理の構築に向けて」オーストラリア学会第 16 回全国研究大会一般個別研究報告 (於：同志社大学) 2005 年 6 月 12 日 (口頭発表)

⑪塩原良和「多文化主義政策における自治体・エスニック組織・NPO の連携——シドニーの事例を中心に」国立民族学博物館・多文化共生センター公開フォーラム「多文化共生社会の形成をめざす実践と研究のために——10 年の節目から『多文化共生学』を考える」テーマ別研究会報告 (於：国立民族学博物館) 2005 年 10 月 9 日 (口頭発表)

⑫塩原良和「オーストラリアのアジア系ミドルクラス移民への社会福祉——シドニー北部地域を事例に」日本国際政治学会 2005 年度研究大会トランスナショナル分科会報告 (於：札幌コンベンションセンター) 2005 年 11 月 18 日 (口頭発表)

⑬塩原良和「白人性・ミドルクラス性・日本人性——オーストラリア日本人移住者の事例研究」関東社会学会第 54 回大会自由報告部会 (於：慶應義塾大学) 2006 年 6 月 17 日 (口頭発表)

⑭Shiobara, Yoshikazu, 'Social Welfare for Asian Middle Class Immigrants in Australia: A Case Study of Northern Sydney,' The British Australian Studies Association Biennial Conference 2006, University of Exeter, Penryn, UK. September 10, 2006. (国際学会。英語にて口頭発表)

⑮塩原良和「多文化的に取り締まる——ネオリベラル多文化主義におけるセキュリティと社会的排除」日本国際政治学会 2006 年度研究大会トランスナショナル分科会報告 (於：かずさアカデミアホール) 2006 年 10 月 15 日 (口頭発表)

⑯塩原良和「オーストラリアの移民受入政策・言語政策の現状と課題」日本語教育学会公開シンポジウム「移民労働者とその家族のための言語政策と日本語教育」シンポジウム第 1 部報告 (於：東京女子大学) 2007 年 3 月 25 日 (口頭発表)

⑰塩原良和「ネオリベラル多文化主義の台頭と移民の選別／管理／排除——オーストラリアの事例から」関東社会学会第 2 回研究例会「現代の『保守』——何が新しいのか？」報告 (於：立教大学) 2007 年 4 月 7 日 (口頭発表)

⑱塩原良和「あらゆる場所が『国境』になる——オーストラリアの難民申請者政策」Cultural Typhoon 2007 in Nagoya パネルセッション報告 (於：ウィル愛知) 2007 年 7 月 1 日 (口頭発表)

⑲Shiobara, Yoshikazu, 'The Limit of Anti-essentialism in Australian Multiculturalism,' at the panel session 'Cultural Studies and its Relevance for Multicultural Policies Now' Cultural Studies Now:

An International Conference, University of East London, UK. July 21, 2007. (国際学会。英語にて口頭発表)

- ②⑤塩原良和『『変革』を構想する——オーストラリアのアジア系専門職移民による市民活動の可能性と課題』2007年度慶応義塾大学 COE-CCC 国際シンポジウム「多文化多世代交差世界の政治社会秩序形成—多文化世界における市民意識の動態—」グループセッション「オーストラリアにおけるアジア系専門職移民の市民意識」報告(於:慶應義塾大学) 2007年11月25日(口頭発表)
- ②⑥塩原良和『『改革』される多文化主義——オーストラリアにおける移民定住支援政策の変容とネオリベラリズム』オーストラリア学会第19回全国大会一般個別研究報告(於:追手門学院大学) 2008年6月8日(口頭発表)
- ②⑦塩原良和『『連帯としての多文化共生』に向けて——試論的考察』出版記念の集い『日本における多文化共生とは何か——在日の経験から』第二部パネルディスカッション「新自由主義の時代における多文化共生について」報告(於:川崎市教育文化会館) 2008年7月21日(口頭発表)
- ②⑧塩原良和「オーストラリア多文化主義の変容——理論的 이슈の整理」国立民族学博物館共同研究「オーストラリア多文化主義の過去・現在・未来——共生から競生へ」研究会報告(於:国立民族学博物館) 2008年11月9日(口頭発表)
- ②⑨塩原良和「福祉多文化主義とその『改革』——オーストラリア・シドニーにおけるフィールドワークから」大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター2009年度研究センター会議研究報告会報告(於:大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター) 2009年5月30日(口頭発表)
- ③⑩塩原良和「オーストラリアの『多文化主義』から見る、日本の『多文化共生』——変容する『選別／排除』の境界」オーストラリア学会主催(豪日交流基金助成)同志社大学公開シンポジウム「人種主義・植民地主義・多文化主義のポリティクス——オーストラリアと日本の経験」報告(於:同志社大学) 2009年6月27日(口頭発表)
- ③⑪塩原良和「ネオリベラル多文化主義と変容する『選別／排除』の境界」関西学院大学大学院社会学研究科大学院 GP「＜承認＞の社会学的再構築」研究班主催 第1回＜承認＞のフロンティア研究会報告(於:関西学院大学) 2009年6月28日(口頭発表)
- ③⑫塩原良和『『国際社会学』を問い直す——多文化主義研究の視座から』三田社会学会 2009年度大会シンポジウム I (於:慶應義塾大学) 2009年7月11日(口頭発表)
- ③⑬Shiobara, Yoshikazu, 'A Theoretical perspective on "Border crossing": the change of Japanese communities in Australia,' at the panel session 'Shifting implications of "border crossing":

sociological/anthropological perspectives on contemporary transnational movements of people between Japan and Australia,' Japanese Studies Association of Australia – International Conference on Japanese Language Education (JSAA-ICJLE) International Conference 2009, The University of New South Wales/The University of Sydney, Australia, July 15 2009. (国際学会、英語にて口頭発表)

- ③④ Shiobara, Yoshikazu, 'Re-Examining 'Tabunka Kyosei' In Contemporary Japan: From the Viewpoint of Australian Experiences,' at the panel session 'North East Asia in Motion: The Social and Cultural Dimensions of Regional Migration I,' International Convention of Asia Scholars 6, Daejeon Convention Center, Korea, August 7 2009. (国際学会、英語にて口頭発表)

- ③⑤ 塩原良和『「変革としての多文化主義」という構想」平成 22 年度（春季）慶應法学会大会【教員紹介】報告（於：慶應義塾大学）2010 年 6 月 12 日（口頭発表）

- ③⑥ 塩原良和「外国につながる子どもへの支援をつうじた多文化共生概念の再検討」第 16 回多文化間精神医学ワークショップ シンポジウム「多文化の子どもたちへの支援」報告（於：明治学院大学）2010 年 9 月 25 日（口頭発表）

- ③⑦ 塩原良和「問題の文化的社会的側面の分析」大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター武者小路科研費研究会ワークショップ「生物多様性と文化の多様性—南からの移住者コミュニティの担う仲介者の役割」報告（於：名古屋学院大学）2010 年 10 月 19 日（口頭発表）

- ③⑧ 塩原良和「多文化社会における『つながり』の重要性と自治体政策の役割」東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター 多言語・多文化社会研究全国フォーラム（第 4 回）『多文化共生』を問い直す——差別や排除のない公正な社会をめざして」協働実践研究 A「地域における多文化的な『つながり』の創出と自治体の多文化共生政策——横浜市鶴見区の現状から考える」報告（於：東京外国語大学）2010 年 11 月 27 日（口頭発表）

- ③⑨ 塩原良和「北海道ニセコ地域におけるオーストラリア人向け観光と多文化共生」オーストラリア学会第 3 回地域研究例会（関東）報告（於：慶應義塾大学）2010 年 12 月 11 日（口頭発表）

- ④⑩ Shiobara, Yoshikazu, "Multiculturalism in Australia and Tabunka-kyosei in Japan: a comparative analysis," Keio University Global COE Program, Keio/Otago International Workshop, University of Otago, NZ, March 5, 2011 (国際ワークショップ。英語にて口頭発表)

- ④⑪ 塩原良和「社会変動論的多文化主義理論の再構成—国民統合・新自由主義・高度近代」第 3 回国際社会学研究会報告（於：一橋大学）2011 年 4 月 23 日（口頭発表）

④②塩原良和「オーストラリアの多文化政策を踏まえて国内の多文化共生に関する助言」第 8 回移住労働者と連帯する全国フォーラム・東海 2011 分科会⑬「自治体と政策」報告（於：中京大学）2011 年 6 月 18 日（口頭発表）

④③塩原良和「ネオリベラリズムと多文化主義——その先にあるものは何か」第 84 回日本社会学会シンポジウム 1 「ネオリベラリズムとグローバリゼーション——その影響への社会学的接近」（於：関西大学）2011 年 9 月 18 日（口頭発表）

④④Shiobara, Yoshikazu, “Neoliberalism and Multiculturalism: A Cosmopolitan Alternative?,” Keio University Global COE Program, International Symposium on Designing Governance for Civil Society, Keio University, Japan, February 6, 2012（国際シンポジウム。英語にて口頭発表）

④⑤塩原良和「北部準州緊急対応政策における言説政治——先住民族の「自己決定」概念をめぐる」オーストラリア学会第 23 回全国研究大会一般個別研究報告（於：大阪大学）2012 年 6 月 10 日（口頭発表）

④⑥塩原良和「共に生きる場所を創り出すということ——大学学部教育と外国人住民支援の連携の実践から」多文化メディア市民研究会報告（於：三田の家）2012 年 6 月 13 日（口頭発表）

④⑦塩原良和「コスモポリタン多文化主義に向けて」科学研究費補助金（基盤研究 C）「多元化するアイデンティティと「多文化社会・日本」の構想」研究会報告（於：立教大学）2013 年 1 月 12 日（口頭発表）

④⑧塩原良和「『自律』を阻むもの——オーストラリアの先住民族政策における時間／空間管理」関東社会学会第 61 回大会テーマ部会 B 報告（於：一橋大学）2013 年 6 月 16 日（口頭発表）

④⑨Shiobara, Yoshikazu, “Everyday multiculturalism and fortuity: A case study on multicultural screen literacy learning education in a university in Japan,” The Fourth Annual Asian Conference on Media & Mass Communication (MediAsia2013), Ramada Hotel Osaka, Japan, November 10, 2013.（国際シンポジウム。英語にて口頭発表）

⑤⑩塩原良和「自由と放置のはざままで——オーストラリアの庇護申請者政策における『コミュニティ・ベース』アプローチと新自由主義」オーストラリア学会第 8 回地域研究会（関東例会）報告（於：早稲田大学）2014 年 1 月 25 日（口頭発表）

51. 塩原良和「他者を管理／放置する場所——オーストラリアのエスニック・マイノリティ政策とそのオルタナティブ」関西学院大学先端社会研究所 2013 年度シンポジウム「グローバリゼーションと他者問題——現代日本・韓国・オーストラリアの排外主義」報告（於：関西学院大学）2014 年 3 月 1 日（口頭発表）

52. Shiobara, Yoshikazu, “Places for dialogue with others: a short reflection on the emergence of racism and the possibility of educational practices of everyday multiculturalism in contemporary Japan,” UNSW Symposium: Cultural Studies and the New Uses of Literacy, University of New South Wales (Kensington Campus), Sydney, Australia, April 4-5, 2014 (国際シンポジウム。ビデオ録画による英語での報告)

53. 塩原良和「差異の最適化に抗して——エスニック・マイノリティ向け社会政策とネオリベラリズム」「越境社会」研究会（一般財団法人櫻田會助成事業）（於：慶應義塾大学）2014年5月11日（口頭発表）

54. Shiobara, Yoshikazu, “Between freedom and neglect: Community-based approaches and neoliberalism in policies for asylum seekers in Australia,” XVII ISA World Congress of Sociology, (International Sociological Association), Session of RC 31 (Sociology of Migration), Immigrant Integration in the New Immigration Destinations, Pacifico Yokohama, Japan, July 14, 2014（国際学会における英語での口頭発表）

55. 塩原良和「対話的な多文化主義に向けて」新潟大学美術教育研究会・美術科教育学会共催シンポジウム 2015年度美術科教育学会リサーチフォーラム in 新潟『多様化する社会における映像メディアによる表現の可能性——オーストラリアの多文化主義政策に学びながら』（於：新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」）2015年4月18日（口頭発表）

56. Shiobara, Yoshikazu, “Towards Transnational Imagination: Perspectives from Woomera, South Australia,” The 22nd IFSSO General Assembly and International Conference 2015 (International Federation of Social Science Organizations), Special Session 2: On Critical Glocalization, Seijyo University, Tokyo, Japan, May 29, 2015（国際学会における英語での口頭発表）

57. Shiobara, Yoshikazu, “‘Everyday multiculturalism’ of Japanese immigrants in Australia,” The 9th International Convention of Asia Scholars, individual paper session (Migration, Diaspora and Networks II), Adelaide Convention Centre, Adelaide, Australia, July 8, 2015（国際学会における英語での口頭発表）

58. 塩原良和「ネオリベラルな「場所ベース」のアプローチ：オーストラリアのエスニック・マイノリティ政策の変質」立命館大学生存学研究センターワークショップ「マイノリティをめぐる思想／政治：オーストラリアにおける白豪主義・ネオリベラリズム・アジアとの関係から」（於：立命館大学）2015年10月3日（口頭発表）

59. Shiobara, Yoshikazu, “Immigrants and Catastrophes in their Home Countries: “3.11” and Japanese Community in Australia,” 立命館大学大学院先端総合学術研究科 2015年度国際コンファレンス「「カタストロフィと正義」移民／難民とカタストロフィ」（於：立命館大学）2016年3月7日（国際会議における英語での口頭発表）

60.塩原良和「居場所とゆとり——社会変動論的視座から」上智大学教育イノベーション・フォーラム「居場所論の『現在』」(於：上智大学) 2016 年 12 月 3 日 (口頭発表)

61.塩原良和・鈴木弥香子『『多文化共生』は排外主義を克服することができるか?』カルチュラル・タイフーン 2017 パネルセッション「多文化共生の現在形」(於：早稲田大学) 2017 年 6 月 24 日 (口頭発表・共同発表)

(5) 学会・国際会議・シンポジウム等における実行委員・企画等

①「ジャパニーズ・イン・オーストラリア——「記憶」＜過去と現在の交錯点＞」オーストラリア学会第 13 回全国研究大会テーマセッション (於：日本大学) 2002 年 6 月 9 日 (大会実行委員・テーマセッションコーディネーター、及び報告者として参加)

②『『国際社会学』の到達点』三田社会学会 2009 年度大会シンポジウム I (於：慶應義塾大学) 2009 年 7 月 11 日 (シンポジウムコーディネーター、司会者、報告者として参加)

③ ‘Shifting implications of “border crossing”: sociological/anthropological perspectives on contemporary transnational movements of people between Japan and Australia,’ Japanese Studies Association of Australia – International Conference on Japanese Language Education (JSAA-ICJLE) International Conference 2009, The University of New South Wales/The University of Sydney, Australia, July 15 2009. (国際学会。コーディネーター、司会者、報告者として参加)

④「オーストラリアにおけるシネリテラシー教育とその日本社会への示唆」オーストラリア学会第 21 回全国研究大会シンポジウム (於：福島大学) 2010 年 6 月 13 日 (大会運営責任者、シンポジウムコーディネーター、司会者として参加)

⑤豪日交流基金助成 オーストラリア学会主催シンポジウム「多文化社会におけるマルチテラシー」(於：慶應義塾大学) 2011 年 7 月 2 日・3 日 (運営責任者、司会者として参加)

⑥Keio University Global COE Program, International Symposium on Designing Governance for Civil Society, Keio University, Japan.

Session 9: Multiculturalism and Immigration in the Asia Pacific

February 6, 2012.

Chair: Yoshikazu Shiobara

Speakers: Yoshikazu Shiobara, Takeshi, Hamano (University of Kitakyushu), Pedro Iacobelli (Australian National University)

Discussant: Kohei Kawabata (Kyoto University) (国際シンポジウム。セッションコーディネーター、報告者、司会者として参加)

⑦豪日交流基金サー・ニール・カリー奨学金受賞公開講座「ポスト 311 期の日豪市民社会～対話と協働の可能性を探る～」(於：慶應義塾大学・福島大学) 2013 年 1 月 9 日・10 日 (運営責任者・司会として参加)

⑧三田社会学会 2015 年度大会シンポジウム「移民の市民的統合の内実～政治社会学的地域研究の視座から～」(於：慶應義塾大学) 2015 年 7 月 4 日 (コーディネーター、司会者として参加)

⑨日本社会学会第 88 回大会研究活動委員会企画テーマセッション 1 「トランスナショナルリズムの批判的再検討——グローバルズムに抗う「越境」を想像／創造する」(於：早稲田大学) 2015 年 9 月 19 日 (コーディネーター・司会者として参加)

(6) 学会・国際会議・シンポジウム等での司会・コメンテーター・ファシリテーター等

①‘Panel 2 – Social Insecurity and Minority Rights in the Information Age,’ Asia Civic Rights Network, *National Security, Media and the Promotion of Rights in Asia: International Workshop*, February 23, 2004 at International House of Japan, Tokyo.

Presenters; Hideaki Uemura (Keisen University), Yuuki Hasegawa and Satoko Taira (国際ワークショップ。英語で司会進行)

②シンポジウム「歴史実践へのまなざし」慶應義塾大学 21 世紀 COE-CCC 多文化市民意識研究センター主催 (於：慶應義塾大学) 2006 年 4 月 23 日 (日本語で司会を担当)

③‘Session 14: Gender and Ethnicity in Contemporary Japan,’ 10th Annual Asian Studies Conference Japan, June 24, 2006 at International Christian University, Tokyo.

Organizer: Hirohisa, Takenoshita (Shizuoka University)

Presenters: Hirohisa Takenoshita, Keiko Funabashi (Shizuoka University), Junko Nishimura (Meisei University), Kohei Kawabata (Australian National University) (ディスカッサントおよび司会を担当。英語で発表・司会進行)

④日本政治社会学会第 4 回大会第 8 セッション (於：慶應義塾大学) 2006 年 11 月 24 日
司会：関根政美 (慶應義塾大学教授)

報告者：稲井由美 (慶應義塾大学 21 世紀 COE-CCC 研究員)、昔農英明 (同)、藤田智子 (同)

討論者：塩原良和

⑤日本語教育学会公開シンポジウム「移民労働者とその家族のための言語政策と日本語教育」シンポジウム第 2 部 (於：東京女子大学) 2007 年 3 月 25 日 (ディスカッサントを担当)

⑥関東社会学会第55回大会テーマ部会B「現代の『保守』——何が新しいのか？」（於：筑波大学）2007年6月16日
司会：小井土彰宏（一橋大学）
奥村 隆（立教大学）
報告者：上野千鶴子（東京大学）
大澤真幸（京都大学）
北田暁大（東京大学）
討論者：高原基影（日本学術振興会）
塩原良和

⑦日本社会学会第81回大会シンポジウム2「ポスト・ナショナリズム時代の新たな連帯の可能性」（於：東北大学）2008年11月24日
司会：上林千恵子（法政大学）
報告者：大澤真幸（京都大学）
杉田敦（法政大学）
町村敬志（一橋大学）
コメンテーター：萱野稔人（津田塾大学）
塩原良和

⑧東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター 多文化協働実践研究・全国フォーラム（第2回）分科会6「市民・行政の協働と広域連携の可能性～町田市・相模原市の政策づくりの実践から」（於：東京外国語大学）2008年11月30日
第2部 パネルトーク 司会を担当

⑨Keio University Global COE Program, International Symposium on Designing Governance for Civil Society (at Keio University, Tokyo)
Session 2: Global Session for Korea University BK21-Public Administration and Keio University GCOE-CGCS: Governance in Asia and Oceania.
February 10, 2009, 13:30-18:00 (Discussant を担当)

⑩早稲田大学メディア・シティズンシップ研究所主催 第2回国際シンポジウム「多文化社会における批判的メディア研究と教育の課題」ワークショップ1「日本における多文化状況と研究課題」（於：早稲田大学）2009年4月26日
司会：清水知子（筑波大学）
報告者：五十嵐泰正（筑波大学）・山本敦久（上智大学）
討論者：イエン・アン（University of Western Sydney）・塩原良和

⑪Session 17, 'Education and the New Second Generation of Immigrants in Japan: The Case of Japanese Brazilian Migrants,' The 13th Asian Studies Conference Japan (ASCJ), Sophia University, Tokyo, June 20 2009, 15:30-17:30
Organizer/Chair: Hirohisa Takenosita (Shizuoka University)

Presenters: Hirohisa Takenosita, Eunice Akemi Ishikawa (Shizuoka University of Art and Culture),
Roberto Pires Jr. (Shizuoka University)
Discussant: Yoshikazu Shiobara

- ⑫三田社会学会 2009 年度大会シンポジウム I 『『国際社会学』の到達点』（於：慶應義塾大学）2009 年 7 月 11 日、13:15-15:15

司会者：塩原良和

報告者：塩原良和・木村真希子（明治学院大学）

コメンテータ：小井土彰宏（一橋大学）・石井由香（立命館アジア太平洋大学）

- ⑬横浜市国際交流協会 横浜開港 150 周年記念イベント「横浜国際フェスタ 2009」特別企画シンポジウム「横浜の多文化共生について考える」（於：パシフィコ横浜展示ホール）2009 年 9 月 6 日

司会者・ファシリテーター：塩原良和

パネリスト：王曉雁（YOKE 情報相談コーナースタッフ）・小菅真人（横浜市立大学 4 年生）・張恵珠（在日本朝鮮青年同盟神奈川県本部）

- ⑭東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター 多文化協働実践研究プレフォーラム「鶴見における『多文化共生のまちづくり』を考える」（於：鶴見会館）2009 年 10 月 31 日

司会者：尹慧瑛（東京外国語大学）

パネリスト：皮進、島袋健一、比嘉サオリ、李海營、井草まさ子

質疑応答・全体討論ファシリテータ：塩原良和

まとめ：渡戸一郎（明星大学）

- ⑮日本国際政治学会 2009 年度研究大会 トランスナショナル I 分科会「トランスナショナル・アクターとしての NGO・NPO—国際支援活動における国家への影響力と相互行為—」（於：神戸国際会議場）2009 年 11 月 6 日

司会者：塩原良和

報告者：多田透（関西大学）・市原麻衣子（ジョージワシントン大学）・上野友也（日本学術振興会）

討論者：吉川元（上智大学）・清水敏弘（日本国際ボランティアセンター）

- ⑯東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター 多文化協働実践研究・全国フォーラム（第 3 回）分科会 A「定住外国人コミュニティをめぐる状況の変化にどう対処するか——多文化共生の新たな展開に向けて」（於：東京外国語大学）2009 年 12 月 5 日

司会者：尹慧瑛

報告者：大塚尚子、富本潤子、長谷部美佳、金根熙、太田祥一

討論者：北脇保之（東京外国語大学）

コーディネーター：渡戸一郎（明星大学）・塩原良和

- ⑰大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター（CAPP）人人研プロジェクト「韓国における移住社会研究会」（於：慶應義塾大学）2010年2月27日
司会者：宣元錫
報告者：イヘジン（一橋大学大学院）
コメンテータ：鈴木江理子・塩原良和
- ⑱「多文化社会におけるシネリテラシーの可能性」オーストラリア学会第21回全国研究大会ワークショップ（於：福島大学）2010年6月13日
ファシリテータ：塩原良和
報告者：高橋研一郎・大川史織
リプライ：Jane Mills（チャールズ・スタート大学）
- ⑲「オーストラリアにおけるシネリテラシー教育とその日本社会への示唆」オーストラリア学会第21回全国研究大会シンポジウム（於：福島大学）2010年6月13日
司会者：塩原良和
報告者：Jane Mills（チャールズ・スタート大学）
千葉茂樹（日本映画学校）
佐藤憲吉（NPO 法人シャローム理事）
コメンテータ：青木麻衣子（北海道大学）
- ⑳大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター（CAPP）人人研プロジェクト「移住者の人権と多文化共生の法制度」研究会（於：大阪経済法科大学東京麻布台セミナーハウス）2010年6月27日
報告者：近藤 敦（名城大学）
討論者：藤本伸樹（ヒューライツ大阪）
塩原良和
- ㉑日本学術会議公開講演会（後援：野村財団）「グローバル化するメディア社会と文化的市民権」（於：法政大学）シンポジウム「日本におけるエスニック・メディアの現状と日系外国人の声」2010年7月25日
報告者：
Ewerthon Tobace（ブラジル系メディア編集長）
段躍中（日中文化交流研究所所長・日本僑報社長）
市川速水（朝日新聞企画事業担当補佐・元ソウル、北京特派員）
姜誠（フリーライター）
コメント：塩原良和（慶應義塾大学准教授）
アンジェロ・イシ（武蔵大学社会学部准教授）
司会者：毛利嘉孝（東京芸術大学准教授・日本学術会議連携会員）
田嶋淳子（法政大学教授・日本学術会議連携会員）
- ㉒日本国際政治学会 2010 年度研究大会（於：札幌コンベンションセンター）トランスナ

シヨナルⅢ分科会「非国家主体におけるセキュリティー・ガバナンスの可能性ーアジアとアフリカの視点から」2010年10月30日

司会者：塩原良和

報告者：重政公一（関西学院大学）

山根達郎（広島大学）

討論者：古川浩司（中京大学）

②③日本社会学会第83回大会（於：名古屋大学）若手企画テーマ部会(1)「グローバリゼーションと移動・定住のフロンティアの現在」2010年11月6日

司会者：川端幸平（関西学院大学）・白石壮一郎（関西学院大学）

報告者：安達智史（日本学術振興会）

稲津秀樹（関西学院大学）

轡田竜蔵（吉備国際大学）

谷村 要（大手前大学）

山北輝裕（日本大学）

コメンテータ：塩原良和・五十嵐泰正（筑波大学）

②④Keio University Global COE Program, International Symposium on Designing Governance for Civil Society (at Keio University, Tokyo)

Session 8: Minority and Civil Society

February 6, 2011, 15:45-17:45

Chair: Masami Sekine (Keio University)

Speakers: Tomoko Fujita, Maya Suzuki, Hideaki Sekino (Keio University)

Discussant: Yoshikazu Shiobara

※国際シンポジウム：英語での討論者を担当

②⑤移民政策学会 2011 年度年次大会（於：立教大学）自由報告部会 2、2011 年 5 月 22 日

司会者：塩原良和

報告者：新津久美子（東京大学大学院）、手塚沙織（同志社大学大学院）、渡會友子（ミュンヘン大学大学院）、北川眞也（大阪市立大学）、池上重弘（静岡文化芸術大学）、武田里子（明星大学）

②⑥かながわ国際交流財団フォーラム「神奈川の外国人コミュニティのこれから——東日本大震災と多文化共生の地域づくり」（於：神奈川韓国会館7階多目的ホール）2011 年 5 月 28 日

司会者：平高史也

報告者：ジギャン・クマル・タパ、宮ヶ迫ナンシー理沙、トルオン・ティ・トゥイ・チャン、丹野清人

コメンテータ：塩原良和

②⑦第 59 回関東社会学会大会 自由報告部会 第 6 部会「市民社会と多様性」（於：明治大

学) 2011 年 6 月 19 日

報告者：崔ミョンギン、柳蓮淑、福田友子、稲葉年計

司会者：塩原良和

- ②⑧豪日交流基金助成 オーストラリア学会主催シンポジウム「多文化社会におけるマルチ
リテラシー」「総括討論」(於：慶應義塾大学) 2011 年 7 月 3 日

パネリスト：千葉茂樹 (日本映画大学)

ジェーン・ミルズ (チャールズ・スタート大学)

ファシリテータ：塩原良和

- ②⑨芸術文化振興基金ほか助成 ダイアログ岡山主催「朝鮮学校ダイアログ」シンポジ
ウム「ダイアログⅢ 越境するジモト ダイアログ岡山は何を目指すべきか」(於：
旧岡山朝鮮初中級学校) 2011 年 8 月 28 日

パネリスト：川端浩平 (京都大学)・金泰植 (獨協大学他)・轡田竜蔵 (吉備文化大学)・
松田葉子 (元・日米タイムズ記者)・塩原良和

- ③⑩北九州国際ビエンナーレ 2011 シンポジウム「多文化社会における新たな〈公共性〉へ
向けて」シンポジウム 1「多文化主義と文化的市民権」(於：福岡ひびき信用金庫ホール)
2011 年 10 月 1 日

報告者：岩渕功一 (早稲田大学)・藤井大輔 (九州国際大学)・松崎百合子 (女性エンパ
ワーメントセンター福岡)・毛利嘉孝 (東京藝術大学)

コメンテータ：田嶋淳子 (法政大学)・塩原良和

- ③⑪人の国際移動研究会主催 公開シンポジウム「外国籍市民への支援と研究の狭間で——
私のフィールドワーク論」(於：上智大学) 2011 年 10 月 29 日

報告者：清水睦美 (東京理科大学)・高畑幸 (静岡県立大学)

コメンテータ：倉石一郎 (東京外国語大学)・塩原良和

- ③⑫鶴見国際交流ラウンジ・横浜市鶴見区役所主催 パネルディスカッション「多文化共生
のまちづくりと教育～あたたかいまち鶴見を目指して～」(於：鶴見国際交流ラウンジ)

2011 年 12 月 3 日

パネリスト：富本潤子 (IAPE)、土屋隆史 (横浜市立鶴見中学校教諭)、ベルナディア・
イラワティ・チャンドラデウイ (CITYNET)

ファシリテータ：塩原良和

- ③⑬オーストラリア学会第 4 回地域研究例会 (関東例会)「オーストラリア観光の社会学ー
ケアンズを事例としてー」(於：慶應義塾大学) 2011 年 12 月 17 日

報告者：藤岡伸明 (一橋大学大学院)・小野塚和人 (一橋大学大学院)

コメンテータ：塩原良和

- ③⑭オーストラリア学会第 5 回地域研究例会 (関東例会) (共催：慶應義塾大学グローバル

COE)『『原子力』という観点から見た日豪関係の再検討』(於：慶應義塾大学) 2012 年 1 月 28 日

報告者：田中利幸（広島市立大学）

コメンテータ：村上雄一（福島大学）・塩原良和

③⑤Keio University Global COE Program, International Symposium on Designing Governance for Civil Society, Keio University, Japan.

Session 9: Multiculturalism and Immigration in the Asia Pacific

February 6, 2012.

Chair: Yoshikazu Shiobara

Speakers: Yoshikazu Shiobara, Takeshi, Hamano (University of Kitakyushu), Pedro Iacobelli (Australian National University)

Discussant: Kohei Kawabata (Kyoto University)

※国際シンポジウム：英語での司会と報告を担当

③⑥Keio University Global COE Program, International Symposium on Designing Governance for Civil Society, Keio University, Japan.

Session 12: Sociology

February 6, 2012.

Chair: Masami Sekine (Keio University)

Speakers: Tomoko Fujita, Maya Suzuki (Keio University)

Discussant: Makiko Kimura (Meiji Gakuin University), Yoshikazu Shiobara

※国際シンポジウム：英語でのコメントを担当

③⑦日本移民学会第 22 回年次大会書評シンポジウム「日本移民学会 20 周年記念論文集『移民研究と多文化共生』(2011 年、御茶の水書房) をてがかりとして」(於：関西学院大学) 2012 年 6 月 30 日

コメンテーター：小井土彰宏（一橋大学）、早瀬晋三（大阪市立大学）

執筆者リプライ：蘭信三（上智大学）、塩原良和（慶応大学）、竹沢泰子（京都大学）

司会：菅 美弥（東京学芸大学）

③⑧韓国人研究者フォーラム 第 26 回定例研究会（於：法政大学）2012 年 9 月 15 日

報告者：宮島喬

コメンテータ：李宇海・塩原良和

③⑨豪日交流基金サー・ニール・カリー奨学金受賞公開講座「ポスト 311 期の日豪市民社会～対話と協働の可能性を探る～」(於：慶應義塾大学・福島大学) 2013 年 1 月 9 日・10 日 (1 月 9 日の司会を担当)

④⑩多文化メディア市民研究会（東京藝術大学毛利嘉孝科研費研究会）公開研究会「多文化としての沖縄、沖縄の中の多文化」(於：那覇市立若狭公民館) 2013 年 10 月 19 日・20

日（10月20日公開研究会3「こども/移民/地域」の司会を担当）

- ④①日本学術会議主催学術フォーラム「多文化共生社会の現在と在日外国籍女性」（於：日本学術会議講堂）2013年12月8日

報告者：鄭暎恵（大妻女子大学）・大村昌枝（宮城県国際化協会）・イシカワ エウニセアケミ（静岡文化芸術大学）・嘉本伊都子（京都女子大学）

コメンテータ：伊藤るり（一橋大学）・塩原良和

- ④②ソーシャル・ジャスティス基金 アドボカシーカフェ「国連人権勧告は守らなくていいの？—国際人権条約と日本の人権施策」（於：新宿区四谷地域センター）2014年2月28日

報告者：寺中誠（東京経済大学）

コメント：塩原良和

- ④③2014年度三田社会学会大会シンポジウム「在日外国人・マイノリティの現在——移住と定住をめぐる」（於：慶應義塾大学）2014年7月5日

司会：柏崎千佳子（慶應義塾大学）

報告者：坪谷美欧子（横浜市立大学）・李洪章（神戸学院大学）・福田友子（千葉大学）・鄭暎恵（大妻女子大学）

コメンテータ：塩原良和

- ④④新潟大学美術教育研究会・美術科教育学会共催シンポジウム 2015年度美術科教育学会リサーチフォーラム in 新潟『多様化する社会における映像メディアによる表現の可能性——オーストラリアの多文化主義政策に学びながら』（於：新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」）2015年4月18日（パネルディスカッション）

コーディネーター：柳沼宏寿（新潟大学）

パネラー：宮脇理（元筑波大学教授）

千葉茂樹（日本映画大学特任教授）

ジェーン・ミルズ（ニューサウスウェールズ大学准教授）

塩原良和

- ④⑤オーストラリア学会第26回全国研究大会シンポジウムⅡ「新自由主義時代のオーストラリアにおける差異／境界と社会統合」（於：慶應義塾大学）2015年6月14日

司会：塩原良和

報告者：津田博司（筑波大学）、藤田智子（駒澤大学）、

栗田梨津子（国立明石工業高等専門学校）

討論者：関根政美（慶應義塾大学）

- ④⑥三田社会学会 2015年度大会シンポジウム「移民の市民的統合の内実～政治社会学的地域研究の視座から～」（於：慶應義塾大学）2015年7月4日

司会・コーディネーター：塩原良和

報告者：昔農英明（明治大学）、鈴木規子（東洋大学）、小林宏美（文京学院大学）、
竹ノ下 弘久（上智大学）
コメンテーター： 関根政美（慶應義塾大学）、吉野耕作（上智大学）

- ④⑦日本社会学会第 88 回大会研究活動委員会企画テーマセッション1「トランスナショナル
リズムの批判的再検討——グローバリズムに抗う「越境」を想像／創造する」（於：早稲
田大学）2015 年 9 月 19 日

司会・コーディネーター：塩原良和

報告者：西原和久（成城大学）、鈴木弥香子（慶應義塾大学大学院）、倉地真太郎（慶應
義塾大学大学院）、高谷幸（岡山大学）、山本直子（慶應義塾大学大学院）、栢木清吾（神
戸大学）

- ④⑧日本移民学会第 26 回年次大会 大会企画シンポジウム「移民と難民：いま移民研究に
何ができるのか」（於：阪南大学）2016 年 6 月 25 日

司会：佐原彩子（大月短期大学）

基調講演：石川えり（難民支援協会）「日本における難民の現状・課題：支援の視点から」

報告：昔農英明（明治大学）久保忠行（大妻女子大学）

コメンテーター：塩原良和

- ④⑨神戸大学国際文化学研究推進センター／JSPS 研究拠点形成事業「書評会 『社会的分
断を越境する』（於：神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ）2017 年 4 月 23 日

司会：辛島理人・栢木清吾（神戸大学）

評者：落合知子（神戸大学）、高橋進之介（神戸大学）、金南咲季（大阪大学大学院）、ケ
イン樹里安（大阪市立大学大学院）

応答：塩原良和、稲津秀樹（鳥取大学）、矢野未知生（青弓社）

- ⑤⑩関東社会学会第 65 回大会自由報告部会「第 6 部会 移民と差別」（於：日本大学文理学
部）2017 年 6 月 4 日

司会：塩原良和

報告者：小林宏美（文京学院大学）、上野貴彦（一橋大学）、鄭康烈（一橋大学）、三浦優
子（立教大学）

51. 石井香世子編『国際社会学入門』河合優子編『交錯する多文化社会』出版記念シンポ
ジウム「グローバル社会を生きる」（於：立教大学）2017 年 9 月 30 日

報告者：石井香世子（立教大学）・河合優子（立教大学）他 2 名

コメンテーター：塩原良和

(7) 講演・客員講義（非常勤講師を除く。教歴に関しては履歴書参照）

- ①2002 年 5 月 8 日 慶應義塾大学法学部政治学科 関根政美研究会客員講義

題目：テッサ・モーリス＝鈴木著『辺境から眺める』を題材に、解説と学生によるディス

カッション（90 分間）

- ②2002 年 12 月 21 日 神奈川県国際交流協会 「ピースメッセンジャーかながわ in Australia」
スタディーツアー事前研修会 講師
題目：「オーストラリアの多文化主義」（90 分間）
- ③2003 年 4 月 18 日 神奈川県国際交流協会 「ピースメッセンジャーかながわ in Australia」
スタディーツアー フォローアップ研修 講師
題目：「オーストラリアの事例を神奈川でどう生かすのか？」（90 分間）
- ④2004 年 8 月 16 日 ‘Japan’s Others’ (JAPN 2501), Department of Japanese and Korean Studies,
School of Modern Language Studies, Faculty of Arts and Science, University of New South Wales
（科目名「日本社会における他者」豪州ニュー・サウス・ウェールズ大学人文科学部近
代言語学科日本・韓国研究科設置科目。担当：Dr. Julia Yonetani）客員講義
題目：“Multiculturalism in Comparative Perspective: Translating Ghassan Hage into Japanese”
（日本とオーストラリアにおける多文化主義の比較について）（英語にて講義・120 分間）
- ⑤2004 年 12 月 1 日 静岡文化芸術大学学長特別研究セミナー講師
題目：「行政、NGO、そして移民の日常——シドニー西部地域の多文化主義」（90 分間）
- ⑥2005 年 5 月 14 日 あーすフェスタかながわ 2005 外国籍県民フォーラム報告者
題目：オーストラリアのワンストップ支援・情報サービス——シドニー北部の事例から
（30 分間）
- ⑦2005 年 6 月 10 日 東京外国語大学大学院 中野敏男研究会 客員講義
題目：「ホワイト・ネイション」の「カブラマタ」（90 分間）
- ⑧2005 年 11 月 5 日 神奈川県国際交流協会 県立地球市民かながわプラザ展示スタッフ
（ボランティア）専門研修 講師
題目：「多文化共生におけるボランティアの役割とは？」（3 時間）
- ⑨2006 年 1 月 24 日 全国市町村国際文化研修所「平成 17 年度第 3 回国際化対応コース」
（海外の多文化共生事例）講師
題目：「オーストラリアの多文化主義政策——日本の自治体施策への示唆」（140 分）
- ⑩2006 年 7 月 22 日 科研費研究会「グローバル化時代の多文化主義と社会変動」（研究代
表者：鈴木茂）研究会講師
題目：「再考——ネオ・リベラリズムの時代の多文化主義」（180 分）
- ⑪2006 年 10 月 26 日 文京区国際交流推進講座「多言語・多文化社会の到来に向けて～外
国人との共生を考える」（第 4 回）講師

題目：「多文化社会に向けて——オーストラリアの経験から」（120 分）

⑫2006 年 11 月 17 日 明星大学「社会関係研究 E（地域コミュニティと生活）」（担当：渡戸一郎）講師

題目：「オーストラリアの多文化コミュニティの現状と課題」（90 分）

⑬2006 年 11 月 30 日 第 11 回トランスアジア文化研究会 講師

題目：「ネオリベラル化する多文化主義と日本の『多文化共生』——オーストラリアの事例からの示唆」（120 分）

⑭2006 年 12 月 14 日 桜美林大学“Comparative Culture”（担当：小林宏美）客員講義

題目：“Tabunka Kysei in contemporary Japan”（90 分）※英語で講義

⑮2007 年 9 月 29 日 多民族共生教育フォーラム 2007 東京プレイベント 公開セミナー講師

題目：「オーストラリアの多文化主義——移民の子どもたちの教育」（120 分）

⑯2008 年 12 月 20 日 品川区民大学入門講座「もっと地球と対話しようー国際理解教育と多文化共生」講師

題目：「多文化共生の可能性と限界——オーストラリアからの視点」（120 分）

⑰2009 年 2 月 3 日 徳島県国際交流協会 講演会講師

題目：「多文化共生の可能性と課題：オーストラリアの事例から」（90 分）

⑱2009 年 11 月 27 日 全国市町村国際文化研修所 平成 21 年度「海外政策情報交流セミナー：オーストラリアの多文化共生」研修講師

題目：「オーストラリアの多文化主義政策」（140 分）

「オーストラリアの移民コミュニティと NGO」（140 分）

「演習発表・講評」（70 分）

⑲2010 年 6 月 21 日 筑波大学大学院 五十嵐泰正ゼミ 講師

題目：『希望の分配メカニズム——パラノイア・ナショナリズム批判』文献解題（30 分）

質疑応答・自由討論（90 分）

⑳2010 年 10 月 21 日 名古屋学院大学国際開発研究科 講演

題目：「外国人住民支援の「根拠」について——日豪比較を踏まえて」（60 分）

㉑2010 年 11 月 18 日 自治体国際化協会シドニー事務所 豪州多文化主義政策交流プログラム 講師

題目：「オーストラリア多文化主義の系譜と展望」（60 分）

- ②2010年12月15日 つるみ国際交流ラウンジ スタッフ研修 講師
題目：「オーストラリアの「多文化主義」からみる日本の「多文化共生」」(120分)
- ③2011年1月31日 京都大学大学院 新川敏光研究会 講師
題目：「多文化主義概念の再構築に向けてーオーストラリア多文化主義をめぐる逆説」
(120分)
- ④2011年5月23日 静岡大学大学院人文社会学研究科臨床人間科学専攻「多文化共生とケア」講師
題目：「公定多文化主義としての福祉多文化主義——オーストラリアの事例を中心に」
(90分)
- ⑤2011年6月1日 神奈川県人権教育推進協議会 第3回人権教育学習会（於：かながわ県民センター）講師
題目：『多文化共生』の限界を超えて」(90分)
- ⑥2011年6月26日 多文化共生教育ネットワークかながわ（Me-net）NPO 法人設立記念講演（於：横浜市青少年育成センター）講師
題目：「対話のプロセスとしての共生」(120分)
- ⑦2011年7月31日 かながわ国際交流財団 第19回青少年国際セミナー（K-PIT）（於：東海大学湘南キャンパス）講師
題目：「異文化に寛容であること」(70分)
- ⑧2011年10月15日 横浜市鶴見区 平成23年度日本語ボランティア養成講座（於：鶴見国際交流ラウンジ）講師
題目：「多文化共生・社会参加のための日本語支援」(120分)
- ⑨2011年11月25日 自治体国際化協会シドニー事務所 オーストラリア多文化主義政策交流プログラム 講師
題目：「豪州の多文化主義政策——俯瞰的理解のために」(60分)
- ⑩2011年12月10日 香川県国際交流協会 多文化共生社会の担い手養成講座（於：アイパル香川）
題目：「スキルは現場で創りだそう～外国につながる子どもたちへの学習支援～」(210分)
- ⑪2012年7月4日 川崎市ふれあい館・川崎市教育委員会主催 2012年度ふれあい館人権尊重学級Ⅰ（於：川崎市ふれあい館）講師
題目：「日本における移民政策の必要性」(120分)
- ⑫2012年10月6日・11月11日 横浜市国際交流協会日本語ボランティア研修会（於：横

浜市国際交流協会・男女共同参画センター横浜) 講師

題目:「社会参加のための日本語支援を考えよう」(120 分)

③2012 年 11 月 26 日 大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター 市民アカデミア(於:大阪経済法科大学東京麻布台セミナーハウス) 講師

題目:「公定多文化主義をこえて——オーストラリアを中心に」(120 分)

④2014 年 2 月 10 日 御茶ノ水女子大学グローバル教育センター講演会(於:御茶ノ水女子大学) 講師

題目「オーストラリア多文化主義を批判する」(120 分)

⑤2014 年 4 月 29 日 外国につながる子どもの「教育を受ける権利」を考えるフォーラム「学齢超過」の子どもたちの現状と取り組み(主催:ABC ジャパン・青丘社・多文化共生教育ネットワークかながわ・多文化共生センター東京 於:品川区立総合区民会館) 講演

題目:「定住外国人の子どもの教育～現状と課題～」(40 分)

⑥2015 年 6 月 10 日 社会福祉法人青丘社ふれあい館人権尊重学級(於:川崎市ふれあい館) 講師

題目:「『ともに生きる』ことをなぜいま考えるのか」(120 分)

⑦2015 年 10 月 23 日 平成 27 年度横浜市国際人材育成研修～多文化共生を考えよう!(於:横浜市研修センター) 講師

題目:「『権利』の倫理と『経済』の論理 —多文化共生を「空想」にしないために」(120 分)

⑧2015 年 10 月 30 日 イミグレーション・ミュージアム・東京 トークシリーズ「多文化共生について考える」基礎編(於:学びピア 21) 講師

題目:「多文化共生を「空想」にしないために—シティズンシップの視点から」(120 分)

⑨2015 年 11 月 18 日 福島大学「地域社会学Ⅱ」(川端浩平先生) ゲスト講義

題目:「多文化主義の変容とシティズンシップの分裂——オーストラリアと日本を横断する視座から」(90 分)

⑩ 2015 年 12 月 12 日 R I N K (すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク) 講演(於:エルおおさか)

題目:「ゆとり／居場所／共生——分断された現実を結びなおすために」(90 分)

⑪2016 年 7 月 12 日 東洋大学(鈴木規子先生) ゲスト講義

題目:「グローバル化の時代における対話と想像力」(90 分)

④2016 年 10 月 15 日 移住者と連帯する全国ネットワーク&在日本韓国 YMCA 主催 連続
セミナー「諸外国の移民政策を学ぶ」講師（於：在日本韓国 YMCA）
題目：「オーストラリアの移民政策」（120 分）

④32016 年 11 月 11 日 横浜市国際交流協会 日本語ボランティア研修会 第 1 回「日本語
学習経験者の声を聞く」講師&ワークショップ運営（於：緑区市民活動支援センター「み
どりーむ」）
題目：「コミュニティとしての日本語教室」（40 分）
日本語学習経験者へのインタビュー司会進行（30 分）
グループディスカッション司会進行（60 分）

④42017 年 1 月 20 日 平成 28 年度金沢国際交流ラウンジ地域公開講座 講師（於：いきい
きセンター金沢）
題目：「みんなで育てる多文化共生」（120 分）

④52017 年 4 月 25 日 平成 29 年度藤沢市人権施策推進担当者研修会 講師（於：藤沢市
南消防署）
題目：「ともに生きる社会の実現に向けて ～ニーズを施策につなげる～ ー神奈川県
の外国人住民支援・多文化共生施策の課題から」（120 分）

(6) インタビュー記事等
「分断されたグローバル社会を生きるための想像力 『分断と対話の社会学』 塩原良和教
授インタビュー」（本多カツヒロ著）『Wedge Infinity』（ウェブ）2017 年 6 月 23 日
<http://wedge.ismedia.jp/articles/-/9952>

以上